あとがき

古墳時代の島根県

もしあなたが県内の古墳をすべて見学できたとしたら、「自分の住む町には六世紀の古墳が多い」とか「前方後円墳はこの川の東側にしかない」など、多くのことに気づくでしょう。とはいえ、実際にすべての古墳を見学するのはむずかしいものがあります。そこでここでは、これまでの古墳研究でわかりつつある事実を、簡単にまとめてみました。

島根県は、「出雲」「石見」「隠岐」の三地域からなりますが、これらの地域は、古墳時代の文化の内容においても、それぞれの地域でさまざまな特色を持っています。

「卑弥呼の鏡」を持つ古墳

全国で古墳の築造が始まったころ、すなわち四世紀の古墳は島根県内ではあまり多く見つかっていません。初期に造られた大型古墳は、長い「割竹形木棺」と、これをおおう「竪穴式石室」を埋葬施設としていますが、副葬品の中に「三角縁神獣鏡」と呼ばれる大きな鏡を持つものがあることも特徴です。

三角縁神獣鏡は、近畿地方の豪族から各地の豪族に配られたものと考えられています。そしてこの鏡は、もとは中国の史書『魏志』倭人伝に言う「女王・卑弥呼」が、中国の魏王朝から与えられたものだという説があります。県内では、神原神社古墳（大原郡加茂町）をはじめ、大成古墳（安来市）、八日山1号墳（松江市）、四塚山古墳（益田市）などで発見されており、このうち神原神社古墳発見のものには、卑弥呼が魏に使いを送ったとされる年、「景初三年」（西暦二三九年）という文字が見られ、注目されています。（詳しくは二巻を参照）

各地の王者

古墳の大きさは、その築造に動員できる人の数、すなわち支配力の大きさを反映したものと言われています。県内各地にある大きな古墳を比較してみると、出雲では大念寺古墳（出雲市）が九二メートル以上、山代二子塚（松江市）が推定九四メートル、石見では大元1号墳（益田市）が八八メートル、周布古墳（浜田市）が六八メートル、隠岐では平神社古墳（隠岐郡西郷町）が四八メートルとなります。

これらの古墳が造られた時代は、石見の大元1号墳が四世紀、周布古墳が五世紀とされているのに対し、出雲と隠岐の古墳は六世紀のものです。全国的に見ると、五世紀に最大の古墳を造り、六世紀にはいると規模が縮小する地域が多い中で、なぜ出雲で六世紀に最大の古墳が造られたのか、大きな関心を集めています。（図1、2）

「前方後方墳」の多い出雲

「前方後円墳」や「前方後方墳」は、全国でトップクラスの力を持った豪族のために造られた古墳と考えられています。県内では現在のところ、前方後円墳が九四基、前方後方墳が三八基あることがわかっていますが、ほとんどは出雲部に分布しています。とくに前方後方墳は、三七基が出雲、とりわけその東部に分布しており、全国的にもその密度が高い地域と言えます。

また「前方後方墳」という言葉は、島根県史編纂委員を務めた野津左馬之助氏が、一九二五年に『島根県史』の中で、山代二子塚（松江市）を観察し、名付けたのが最初です。その意味で、出雲が「前方後方墳の名称発祥の地」と言えるでしょう。

石棺の多い出雲

出雲は出雲灯籠で知られる来待石（凝灰質砂岩）や荒島石（浮石凝灰岩）などのように、加工しやすい石材に恵まれた所です。古墳時代の人びともこれらの石材に早くから目をつけ、石棺や石室の用材として利用しました。石棺は、舟形石棺や家形石棺といった種類が数多く作られており、出雲は全国的にも石棺が多い地域の一つです。

舟形石棺は神庭岩船山古墳（簸川郡斐川町）や毘売塚古墳（安来市）など、五世紀の大型古墳に採用され、その分布は宍道湖・中海の沿岸部に集中しているのが特徴です。

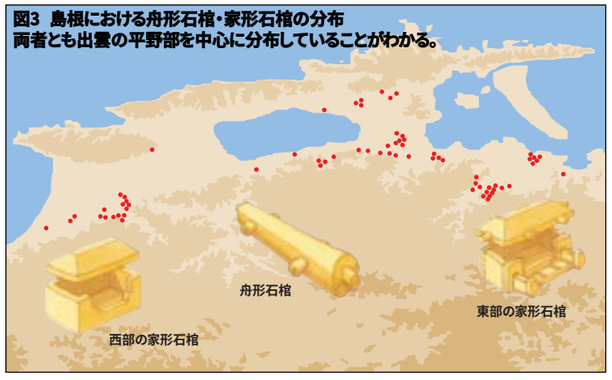
家形石棺は、上島古墳（平田市）など六世紀中ごろのものが早く、七世紀前半ごろまで見られます。出雲の家形石棺の特徴は、穴神1号横穴墓（安来市）のように、側面に入口の付いたもの（平入り横口式）がほとんどであることで、その分布もやはり出雲の平野部に集中しています。（図3）

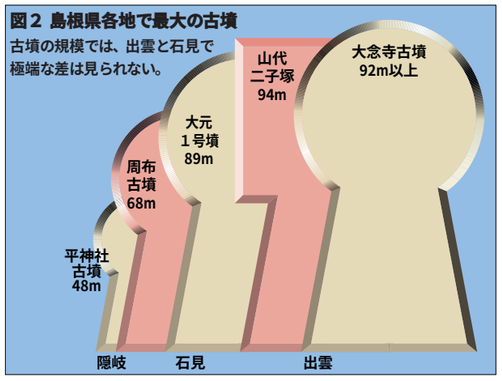
横穴式石室の広がり

六世紀になると、支配者である豪族だけでなく、富裕な農民たちにも小さな古墳の築造が許されるようになったと考えられています。横穴式石室は、大型古墳はもちろん、こうした小型古墳の埋葬施設としても発達したもので、その形態は地域によって顕著に違いが見られます。

出雲では東部と西部、それに山間部（雲南地方）で大きくその様相が異なります。このうち東部を中心に盛んに造られた石棺式石室は、古天神古墳（松江市）に見られるように横口式家形石棺を大型化・石室化し、墳丘に直接埋めるという構造を持っており、全国的にも珍しいタイプの横穴式石室です。また出雲の西部では、大念寺古墳（出雲市）や上塩冶築山古墳（同）など、割石または切石で造られた全国的に見ても巨大な石室が出現します。

雲南から石見にかけては、自然石・割石で造られた、平面形が細長い石室が分布しています。代表的なものとしては、雲南では穴観2号墳（仁多郡仁多町）、石見では片山古墳（浜田市）、鵜ノ鼻古墳群（益田市）割田古墳（邑智郡石見町）などがあげられますが、細かく見ると、各地域でそれぞれ特徴を持った石室が造られています。（図4）





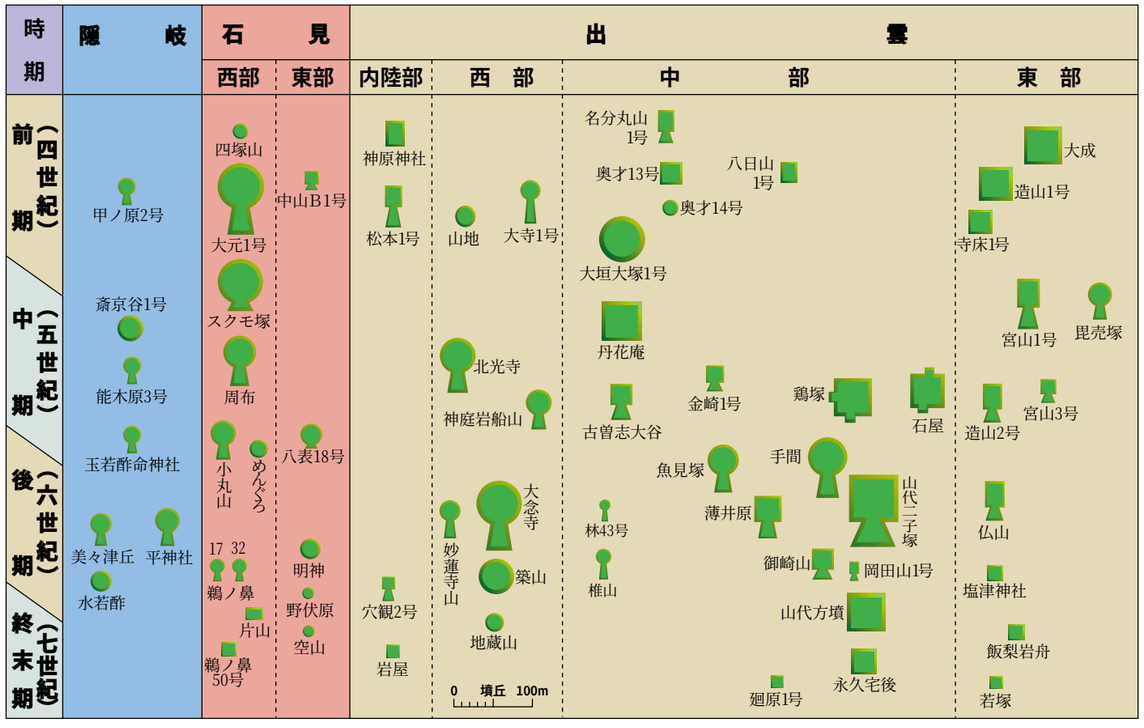


図1 島根県内のおもな古墳の変遷（推定も含む）
石見の大型古墳は古墳時代前半に多いのに対し、出雲では大型古墳が後半まで続く。また前方後方墳や方墳は、出雲でもとくに東部に多いことがわかる。